

日時 令和 5 年 11 月 29 日（水）15:00～16:42

場所 北栄町役場 3 階第 1 委員会室

出席者 委員 8 名（西村、大西、田村、杉上、谷口、野間、柿本、桑田）（欠席 5 名）
事務局 5 名（小澤福祉課長、池田包括支援センター長、松嶋室長、杉川室長、
前田主事）

1 開会

小澤福祉課長

2 あいさつ

大西委員長

3 議事

(1)第 8 期計画に係る介護保険事業等の実施状況について〔資料 1〕

●事務局から資料説明

別添資料に沿って説明。

●質疑、意見等

- ・どの程度で支えあい（支えられる側）に区分されるか。誰が決めるのか。（支援が必要
そうな方だと）気にするのは一番初めに誰がすることか疑問。
→ 「誰が」ではなく、「誰でもいい」と思っている。
- ・年を取ってくると、「困ってるのかな？」という人が見受けられるし、でも自分に関係
ないと思って見て見ぬふりをする人が多いようにも感じている。年を取ると困りごと
を抱える人も増えてくる。
→ もしかしたらその人は「助けられたくない」とか、「助けてと言いつらい」という
心理もあると思う。そのあたりをどう見守っていくかが課題。もし、行政側にそれで
情報が入ってくれば、介入であったり、相談を受けさせてもらったりという形で、
何らかの支援策につなげていく必要がある。
- ・地域の見守りは公民館などの小さな単位で、「みんなで助け合いましょう」、「困ったら
遠慮なく頼みましょう」と機会を捉えて発言していくことで、雰囲気を作っていくしか
ないと思う。役所の仕事に頼むだけではなく、助けたり助けられたりというのをさま
ざまな組織でできるようにしていくべき。
→ 支え愛連絡会の取り組みができそう。自治会ごとに開催するような形で、自治会長
が中心となり、民生委員、福祉推進員、愛の輪協力員、自治会役員等が集まって日々
の情報交換を行うような会があれば、社協の生活支援コーディネーターや福祉課
職員が出向いて情報交換をさせてもらおう。そのような働きかけもしている。

- ・地域支援事業の取り組みの中の、「認知症の人と家族のつどい」のR5実績見込みが前年度より増加するものとして計上されているが、日曜日開催によって参加者が増えているのか。

→ R5実績見込みは、月単位の平均×12 か月で算出している。日曜日開催については、期待しているほどの参加者数ではない。今後、吉野事務長を助言者としてお招きして認知症の人と家族の集いをイベント的に開催する予定なので、そこで参加者の増加を期待している。

- ・在宅介護実態調査において、主な介護者が不安に感じる介護等の項目で「認知症状への対応」を選択した方がとても多い。認知症に関わっていない人への啓発も大事だが、今認知症で困っている人、不安に思っている人に対して、正しい認知症の理解や、施策やサービスの周知ができていければと感じる。

- ・図書館や中央公民館での活動をされている人は介護が今はまだ必要ではない人。このような人の集まりと連携を取るのは良いこと。このような人たちに対しての介護保険事業の啓発をもっと精力的に進めてほしい。

- ・公民館の話題に関連して。公民館の構造が北条は螺旋階段、大栄も階段があるので、高齢者が集まりたくても集まらないメンバーが出てきた。私もコーラスの会に参加した当初は30人近くいたが、今は8~9人まで減ってしまった。コーラスの先生に謝礼をお支払いしているが、メンバーが10人を切ってから謝礼の捻出も困難となり、解散しようかという話も出ている。趣味活動が続けたり、仲間と集ったりすることが認知症や介護の予防になるのであれば、どこか1か所でいいので1階で高齢者が出入しやすい場所を整備してほしい。

→ 現在中央公民館大栄分館の建替が進んでいるので、そちらをお待ちいただきたい。

- ・在宅介護・医療連携について、今まで文章を読むだけではよくわからない分野だったが、実は先般家族が入院し、病院の専門職やケアマネ、利用を予定している介護事業所等が、対面やオンラインで退院前に意見交換や情報共有している姿を見て、連携の取り組みができていると実感した。今後もしっかりと取り組みを継続してもらいたい。

(2)第9期計画の検討状況について

①家族介護用品支給事業について〔資料2〕

●事務局から資料説明

別添資料に沿って説明。

●質疑、意見等

- ・ 良い事業だと思う。国の支援要件から外れて町独自事業になるのであれば、非課税世帯の要件を外して対象を広げることは難しいか。かなりの負担になるか。
 - 相当な負担になるものと思われる。他の補助金等にも言えることだが、非課税で収入の少ない人に支援し、ある程度収入のある人には負担していただくというのが基本的な考え方となっており、条件なく皆にというのは財政負担的にも難しい。
- ・ 国がこの事業をやめると言っている理由は？
 - 以前から国庫補助対象から外す外すと何度も言っていたもの。財源のことも理由としては考えられるが、国からは理由が示されていない。
- ・ 今後、非課税者は増えると思われる。対象者がこれからどんどん増えると予想される中、支給額がこの程度なら大丈夫という目安が必要ではないか。心配なく賄えるのであればぜひ継続してほしいが、支出額が膨らみすぎて9期（令和6年度～8年度）の途中で廃止とならないか心配。
 - 事務局の案としては今後も同じように継続したいが、今後もずっと継続していけるという保証はない。町全体の負担を考えて廃止もあるかもしれないが、おむつが必要な人であっても住み慣れた地域で在宅での生活をしていけることを支援していくという主旨を考えると、継続して支援していきたいという思いはある。
- ・ 必要な事業だと判断する。
- ・ 基本は福祉と同じ考えでいいのではないか。「支援が必要な人に支援をしていく」というところで。

②在宅介護実態調査、介護保険日常生活ニーズ調査について〔資料3-1、3-2〕

●事務局から資料説明

別添資料に沿って説明。

●質疑、意見等

※特になし。

③介護保険料について〔資料４〕

- 事務局から資料説明
別添資料に沿って説明。

- 質疑、意見等
※特になし。

４ 今後のスケジュール

- 事務局から口頭説明

- 質疑、意見等
※特になし。

５ 閉会